

## 設計部会 活動報告

部会長 小泉 雅生（首都大学東京 准教授）

### 1. 部会の概要

心身の健康の維持、増進のために、住まい及び住環境が果たす役割は大きい。住宅の設計にあたっては、その物理的な性能やそこで展開する生活像が個別に検証されることが多い。しかし、健康な暮らしにはそれらを横断的に捉えていく視点が不可欠である。

そこで設計部会においては、単体の住宅から周辺環境まで、部材や設備機器から住まい方まで、様々なスケールとレベルで健康性の検証を行い、具体的な家づくり、街づくりのための指標を導きだし、健康維持増進住宅の有効な設計手法を開発することを目的としている。

具体的には、

#### 1) 健康に関わる要素技術の把握

素材・ディテール・工法・設備機器など。

#### 2) 健康に関わる空間・地域特性の把握

空間性・文化性、地域性・ユニバーサルデザイン・環境共生など

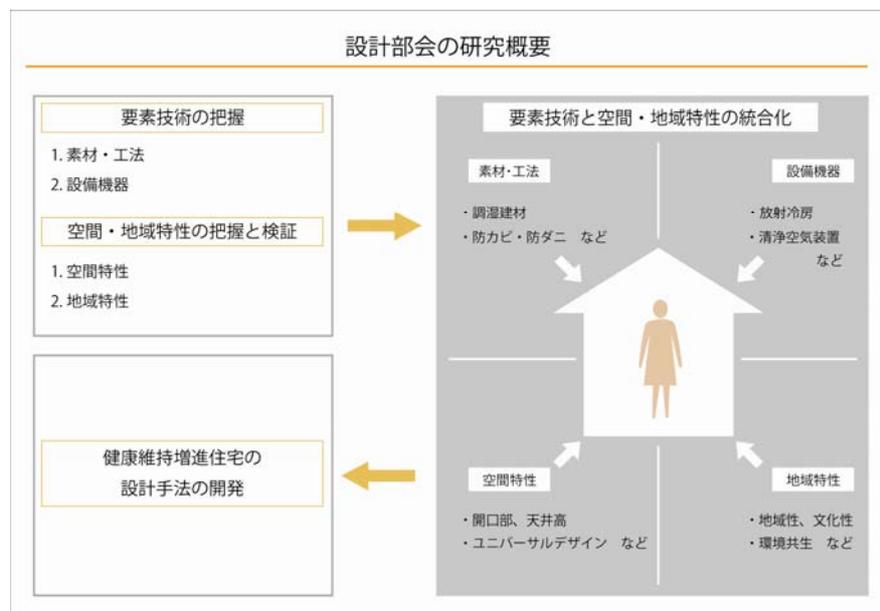
#### 3) 要素技術と空間・地域特性の統合化

要素技術および空間・地域特性を、住宅設計という観点から検証し、統合化を図る。

#### 4) 健康維持増進住宅設計手法の開発

要素技術と空間・地域特性をふまえた、横断的かつ総合的な健康維持増進住宅の設計手法の開発。

図 1.1.1 設計部会活動方針



## 2. 研究内容

### 2.1 健康維持増進住宅を構成する要素

昨年度から引き続き、健康維持増進住宅を構成する要素について検討を行った。各要素のレベルとして、以下の3つを挙げた。本年度は、各レベルの呼称をより分かりやすいものに変更し、概念の整理を行った。表2.1.1にレベルの考え方と内容をまとめた。

レベル名称	考え方	解 説	位置づけ
基本	健康維持増進住宅として、基本的に満たしておくべき事項。 (全ての人の健康維持増進に役立つ事項)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生きる上で必要なこと</li> <li>・生活する上で必要なこと</li> <li>・住宅として必要なこと</li> </ul>	法による義務づけ・誘導
推奨	多くの人々に対して、より健康維持増進に役立つ事項として、推奨するもの。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的に健康維持増進に良いと思われていること</li> <li>・将来発生するであろう「選択」を実現するために準備しておくこと</li> </ul>	評価手法
選択	ユーザーの要求によって、自由に選択できる事項。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康のために住宅でしたいと思うこと(万人にとって健康なもので無くてもよい)</li> <li>・個人の身体状況に合わせたバリアフリー等</li> </ul>	設計ガイドライン

表 2.1.1

次に、各レベルの関係の具体例を表2.1.2に示す。特に「選択」においては、場合によっては「推奨」と相反する場合もあり得るが、それは許容することとする。

表2.1.2 各レベルの関係の具体例

レベル	食べ物(例)	バリアフリー関連(例)		睡眠(光)関連(例)	
基本	毒が入っていない	不要な段差がない(怪我をしない)			
推奨	バランス良く30品目	に対応するための準備(下地・スペースの確保)	日常的な身体活動を促す設備(若干の負荷をかける)	寝室を暗くすることができる(シャッター開閉、雨戸開閉...etc.)	
選択	肉が好き 肉を多く	身体状況に合わせる 個別に改修	積極的に体を鍛えたい トレーニングルームをつくりたい	真っ暗にして寝る 遮光カーテン等	少し明るくして寝たい 常夜灯 朝は明るくしたい 薄いカーテン

日常活動の維持 通常のバリアフリー      積極的な体力増進

[注] 表中の例示の内容は、今後の検討で変更される可能性がある。



(表2.1.3のつづき)

部位:空間 健康に関わる 住まい手のニーズ 基本的考え方(住要求,実現すべき状態)			部位										空間の計画			
			屋根	開口	外壁/内壁	建具	天井/床/段差	設備機器			家具/家電	その他	屋内	外構	向こう三軒両隣	地域
空調/換気	水回り/給排水	情報/照明														
大分類	レベル															
自己実現/自己表現	基本															
	推奨															
	選択	ベッドにいやされたい ガーデニングを楽しみたい														
きたえる/美容	基本	病気にならない														
	推奨	適切な身体活動を行う 肌によい室内環境														
	選択	手軽にトレーニング 日光浴を楽しみたい														
メンテナンス/環境配慮	基本															
	推奨															
	選択															

高气密  
(調湿可能な空間を作るための前提として、住宅全体が高气密であること)

有毒物質を出さない

肌によい室内環境

調湿機能を持つ

調湿機能を持つ設備

部屋に加湿機を設置

## 2.2 健康に関わるニーズ調査

表2.1.3の縦軸となる住まい手のニーズを把握するために、来年度アンケート調査を行う予定である。今年度はアンケート調査に先立って、九州大学の学生を対象にプレ調査を行い、アンケートフォームおよびその分析手法の有効性の検証を行った。分析手法は評価グリッド法を応用し(表2.2.1)、健康に関わるニーズの構造階層を把握し、住宅に関わるものの抽出を行う予定である。

表2.2.1 評価グリッド法に基づく健康に関わるニーズの分析の例

リラックスできる。		自宅リビングのソファ	
リフレッシュできる。	くつろいで音楽をきいているとき。	暗めの照明。	
休息できる。		不快のない環境。	
		快適なホール。	帰りの心配がないとなお良い。
		適度な気温、湿度。	
		少しだけ明るくなる。	
自然に目覚めるのは睡眠が十分だから。	自然に目が覚めたとき。(休日、朝など)	快適なベッド。	重すぎない布団。
十分な休息。		静か。	
休日なのでリラックスできるから。		自宅。	
		ホテル。	

## 2.3 専門家によるレクチュア

設計手法に結びつけるべく、関連する研究分野の専門家よりレクチュアを受け、健康維持増進住宅に関わる多様な視点と知見を得た。講師及びタイトルは以下の通りである。

### 2.3.1 居住者の健康に関わるニーズ・意識

聴くことの必要性 「暮らしを整える」ために  
生活者が求めるライフスタイル  
消費者の住宅/設備に関する意識とトレンド

### 2.3.2 バリアフリー・介護 - 健康維持の観点から

ユニバーサルデザインのまちづくり  
介護予防・介護の観点からみた住宅の課題

### 2.3.3 健康増進

食と健康  
健康と運動・環境  
美容と住まい - 美容科学は健康科学  
グリーンのある暮らしと癒しのインテリア

### 2.4.4 健康維持増進住宅のための視点

改修工事について  
ベトナムハノイの集合住宅における開放性

## 2.3 健康に関わる住宅の見学

ユビキタス

## 3. 今後の活動方針

来年度は継続して

1) 有識者のレクチュア・見学会を通じて健康と住まいに関わる情報収集を行う。

さらに、設計手法の開発へ向けて、

2) エンドユーザーの健康に関わる要望を把握するためのアンケート調査を行う。健康ニーズの構造階層の分析をして、健康維持増進住宅を構成する要素の表に反映させることを目指す。

3) 他部会と連携をとりながら、健康維持増進住宅を構成する要素の表をまとめていく。

これらの活動を通じて、設計ガイドライン・評価手法の方向性を見定めていく。